

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100255	事業の開始年月日	平成26年11月1日	
		指定年月日	平成26年11月1日	
法人名	株式会社 ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター 川崎御幸			
所在地	(〒212-0051) 神奈川県 川崎市 幸区 東古市場 22番地			
サービス種別 定員等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小規模多機能型居宅介護 ■ 認知症対応型共同生活介護 	登録定員	12名	
		通い定員	6名	
定員等		宿泊定員	5名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	H28年10月3日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月16日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2014年11月1日より小規模多機能型居宅介護と認知症対応型共同生活介護の複合型施設として開所し、早2年経過しますがまだまだいろいろ手探り状態です。高齢者の多い地域なので、地域でお困りの方の相談窓口として役立てるよう、より良い介護サービスを提供できるよう、日々努力しています。今年度より町内会に加入させていただきました。毎月10日の自治会に参加させていただいています。天候の良い日は毎日御幸公園やファミリーマートなどに散歩や買い物に外出しています。お誕生日会を中心に、季節毎の行事をご家族様もお招きして、盛大に開催しています。地域の方も数回行事にお招きしました。どなたでも気軽に遊びに来ていただきたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年10月25日	評価機関 評価決定日	平成28年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 事業所はJR川崎駅から川崎市バスで10分、「東古市場」バス停から徒歩3分の場所に位置する。御幸公園に隣接しており、その先には多摩川の土手が広がり散歩には事欠かない。建物は鉄骨造り3階建てで2階、3階が当事業所で、1階が同法人の小規模多機能型居宅介護事業所となっている。</p> <p>【地域連携に向けた取り組み】 当事業所は開所から2年目と歴史が浅く、地域との交流もこれからであるが、職員不足の中でも管理者は、熱意をもって地域運営に取り組んでいる。本年7月より古市場町内会に加盟し、管理者は、毎月行われる町内会の打ち合わせに欠かさず出席している。地域に向けて発信する場を得て、事業所の存在感を示している。町内会からもさまざまな情報提供がある。</p> <p>【居心地のよい共用空間づくり】 廊下や階段室は広く、リビングは日当たりがよい。半期に一度、業者がクリーニングを行っており、清潔である。庭は広く3か所に花壇があり、利用者や家族が野菜の苗などを持ち寄ってお世話をしている。利用者は毎日のように広い庭で外気浴をしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ひだまり（2F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ぬくもり（3F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館に、経営理念や、全国のニチイのほほえみ共通の理念はあるが、ニチイケアセンター川崎御幸は、拠点単体の理念を作成し、理念に即した介護を実践している。	事業所の理念はわかりやすさを重視して、開設時に管理者と職員皆で作成した。理念は、事業所名の「みゆき」の頭文字で始まる3つの文章で構成されている。現在唱和はできていないが、今後朝礼で共有する予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度までは地域との交流が不十分だったが、2016年7月より、古市場町内会との交流を深めている。毎月10日の町会に参加させていただき、情報交換をしている。	町内会に加入後、町会へも積極的に出席し、高齢者の多い地域なので、介護相談も受けるべく、事業所の周知活動を行い、存在感を高めている。また町内会からも情報を入手している。町内会長の縁から幼稚園との接触も図っている。	定期的なボランティアの来訪がないので、区から提供されたボランティアチラシを活用し、さらには幼稚園理事長でもある町内会長の協力を得ながら園児との交流が出来るように働きかけを行うことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より、地域交流に力を入れている。地域で介護の困り事があれば協力する準備は出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直近の運営推進会議では地域連携に関する話し合いを行い、地域との交流は向上している。サービス内容についても発展途上ではあるが、地域密着型の施設として、活動している。	2か月に1回開催している。参加者は町内会長、副会長、広報部長、管理者、職員である。近隣の他法人のデイサービスの管理者の出席もある。	出席者が限定されています。利用者、家族や区役所または地域包括支援センター職員に出席してもらえるように働きかけを行うことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自拠点の努力不足な部分を改善するように活動している。地域との協力体制が出来始めている。	幸区役所の高齢・障害課に運営推進会議の報告書を届けている。困難事例の相談にも乗ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部徘徊や事故防止の観点から2階と3階の出入り口や窓は施錠を施しているが、1Fに関しては自由に出入りできるようにしている。入居者様の意向があれば、フロアは自由に行き来ができる。	玄関の施錠はしていない。ユニット入口は、内側からは暗証番号で開錠、外側からはツマミで開錠できる。2階と3階に2坪ほどの広さのベランダがあるが、施錠はしていない。3月に身体拘束廃止の研修を実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを用いて指導や研修を行い、身体拘束や虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員は契約等には直接は関わっていないため、現状は学ぶ機会がない。管理者・ケアマネージャーが必要な情報を現場に落とし込み、情報を共有するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やアセスメントの際に、必要事項の説明や質疑応答をおこなっている。契約締結後も、疑問があれば随時相談にのっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の頻度が高く、ご意見を頂ける機会が多い。入居者様からの意見を頂く機会も多いので、都度参考にし、改善すべき点は改善するよう心がけている。	事業所に来訪する家族が多い。利用者に対する職員の声掛けについての意見が来訪時にあり、早速運営の改善に反映させた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングにて運営方針の説明や、質疑応答をおこなっている。 また、業務時間外には親睦会等の交流も行っている。	法人の方針等の説明などを行う会議「業務ミーティング」と、介護現場の情報共有のための会議「フロアカンファレンス」をそれぞれ月1回、ユニットごとに行っている。日頃から職員の意見交換が活発に行われている。パッドのサイズ変更や食事の盛り付けなどの提案があり、即時ケアに反映させた。業務外でも管理者はコミュニケーションを深めるため、親睦会を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接雇用の職員が少なく、派遣職員を雇用している。職員不足に伴い残業を余儀なくされているが、現場では各自のモチベーションを落とさぬよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場においては外部の研修の案内をしている。会社としてはキャリアアップ制度を用いて給与アップの取組がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	支店に伺いを立てた後、市内の同業者の連絡会に参加し情報収集や情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、御本人が不安無く過ごせるようケアプランを作成し、プランを基に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、入居後は適宜連携を取りながら2人3脚で介護を行う事を念頭においている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、日々の様子を見ながら、必要に応じて、適宜ケアプランの内容を変更しながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースに併せて、無理強いせずに様子を見ながら、他の方との交流を図っている。違うフロアの入居者、利用者とも交流している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、様子を見ながら、面会時や家族会の際に意見交換を行っている。施設、家族、本人様での二人三脚での介護を念頭に置いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人様からの謝絶の要望がある場合を除き、基本的な面会の制限は無く、外出、外泊などの要望にも、事前の連絡を頂いた上で応えている。	来訪者の面会は家族の了承を得て行っている。来訪者には居室で歓談してもらっている。利用者が家族とおやつを買いに行ったり、馴染みの美容室へ行く場合は支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いをしないよう心がけながら、入居者様同士のかかわりを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談に乗ったり、可能な範囲での情報提供や、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	安心・安全・安楽を念頭に置き、本人の意向を尊重している。自分で発言が困難な方の場合には、その方の立場になって考えるようにしている。	意向の把握が困難な方は表情やしぐさから思いを汲み取っている。夜中目覚めた際や入浴時など1対1になる機会に希望を聞き取るようにしている。利用者に声をかける時は転倒防止のために後ろから呼びかけないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時の情報やセンサー方式を用いて支援経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しながら、気付いたことがあれば記録に落とし込み、職員間で情報共有を行うと共に、現有能力によってできる事はご自身で、難しいことは介助にて対応するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の来訪時に近況報告や意見交換を行ってからプランの見直しをしている。遠方で足の遠い家族の方に関しても電話にて報告、相談を行っている。	利用者の入所時には自宅を訪問しアセスメントして、これを基に入居判定会議を行い暫定ケアプランを作成している。ケアプランの見直しにあたり職員意見なども参考にしている。見直しの期間は短期を半年、長期を1年にすることを検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の必要性に関しては職員に説明をしているが、現状は残念ながら記載が抜けている場合もある。記録の重要性を再度周知し、報告・連絡・相談を徹底する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心・安全・安楽を念頭に置き、入居者様に危険の無い範囲内であれば、既成概念にとらわれることなく新しいことにチャレンジするように職員には周知している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携は不十分だが、各ご家族・身元引受人様とはきちんと連携し、入居者様ひとりひとりが安心・安全・安楽に生活できるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、提携医の幸クリニックの往診を受けている。容態急変時は幸クリニックの地域医療部に連絡し臨時に往診してもらっている。	現在は利用者全員が協力医にかかっている。専門医への受診は原則家族対応だが緊急の場合は職員が対応している。家族が対応した場合の情報は申し送り時に共有している。協力医療機関の看護師とは24時間連絡がとれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の訪問看護室や、当事業所の看護師ときちんと連絡・報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した場合には、病院でのアセスメントを行い、退院後も入院前と変わらぬ生活を送れるように勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ニチイ学館としての看取りの規定は無いが、有事の際は家族や医療機関と連携し、なるべく家族の希望に添った方向での対応を心がけている。	開設以来看取りの経験はない。重度化した場合は医療機関と連携して対応することを家族に口頭で説明している。	グループホームでの看取り経験のない職員も多いので、いざという時の心構えならびに技術の向上を目的とした研修を実施することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に救急救命マニュアルはあるが、訓練はあまり行っていない。有事に備え、講習に参加したり、訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設では3月と9月に訓練実施。地域との交流を深め、地域と連携し訓練を行う。	年2回防災訓練を実施している。9月には火災訓練を実施した。各階にあるベランダは広く、緊急時の一次的な避難場所となる。玄関脇の倉庫に水・カンパン等の備蓄品の用意がある。夜間想定訓練は今後実施する予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳と自立を守り、プライバシーに配慮した声かけが行えるように努力している。	介護記録は利用者から見えないような場所で記入している。個人情報などを含む書類は鍵付きのキャビネットで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心・安全・安楽を念頭に、入居者様本位の生活を営めるように適宜努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の強制ではなく、入居者様自身の意思決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容の利用や、入居者様それぞれの好みに応じた対応を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に関しては食材業者を利用している為、入居者様と一緒に考えることはできないが、可能な範囲のお手伝いを促し、楽しむ努力をしている。	外部業者に献立作成と食材の配送を委託している。食材は個人の嗜好に合わせて変更するなどしている。職員は利用者の食事中は介助に専念している。人員の関係で外食には行けないが、お誕生日にはケーキを用意したり、お寿司の出前を取るなどして心を込めてお祝いしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者で栄養バランス等の計算をしている。拠点では水分量を把握し、少ない方には促しを強化したり、嚥下機能の低下している方にはトロミの使用や、必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時に口腔ケアの誘導を行っている。毎週（月に4回）木曜日に訪問歯科の往診があり、希望者は診察をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一応の排泄誘導の時間の目安を決めているが、基本的には入居者それぞれの排泄リズムを把握し、時間ではなく入居者様のリズムに合わせた誘導を行っている。	利用者が立ち上がった時、そわそわした様子から察知してトイレに誘導するようにしている。適切な誘導により失禁が減少したケースがある。トイレは各ユニットに3か所ある。1か所には男性用小便器もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	提携医と連携しながら日々の排泄の確認を行い、便秘になり易い方には水分補給や適度な運動促し等の取組をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日いつでも入れるように準備している。9名様に週2回以上入浴していただく為、1日3人の目標を設定している。羞恥心に配慮し、強制ではなく、快く入っていただけるよう促しを工夫している。	週に2回は入浴できるようにしている。利用者ごとの入浴状況がわかるようにボードに記録して個別に管理しており、回数は希望により柔軟に対応している。家族と一緒になければ入浴しない利用者には家族に協力いただいている。利用者の状況によりシャワー浴や足湯で対応している。ゆず湯やしょうぶ湯にしたり、入浴剤を入れることもある。浴室・脱衣所ともに広く、暖房設備も完備されヒートショック対策もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が見られる方には適宜時間を見ながら休んでいただいている。夜間に関しては就寝・起床の目安を設定しているが、強制せず個々のタイミングで様子を見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師が立会い、薬の管理をしている。何かあれば提携医と薬剤師に相談している。服薬時は職員のダブルチェックを徹底するよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制をしない範囲で入居者同士の関わりをサポートしたり、孤独が好きな方に関しても放って置くことなく関わりを持つよう取組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩外出をするよう徹底している。近隣の買い物時や、集団外出が苦手な方は個別対応など、強制ではなく、皆様が進んで外に出ていただけるよう取り組んでいる。	好天の日は御幸公園や天満天神社まで散歩に行く。御幸公園には車いすの方も毎日出掛けている。近くのコンビニエンスストアや衣料品店に行き買い物をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には防犯上の観点からお小遣い金1万円を事務所金庫にてお預かりし、必要な物があれば買い物時にお渡ししています。自己管理ができ、家族が了承している方は自己責任にて管理し買い物等に使っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話をしないように厳重注意を受けている方は職員が対応しているが、そうでない方は自由に電話を使用している。手紙を書ける方は本人に記載していただき職員が郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースを心地よく使用していただけるよう、華美な飾り付けや、移動の妨げになるような物は置かないようにしている。居室内は、なじみの品を持ち寄っていただいたり、好きなようにしている。	廊下や階段室は広くリビングは日当たりが良く清潔である。対面式キッチンなので調理しながら利用者の様子が見渡せる。リビングには、乾燥対策の為、加湿器が置かれていた。掃除は毎日職員が行っている。庭は広く花壇が3か所あり、野菜などを育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにおいては、あらゆる危険に配慮し、見守りの中、各入居者様の好きなように過ごしてもらっている。また、各フロアは自由に往来していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室において、適宜の安否確認以外は極力プライベートに配慮し、余計な干渉はしないように心がけている。	2階3階ともに、居室の入口には職員手作りの布と毛糸で出来た洒落たデザインの表札が飾られていた。エアコン・防炎カーテン・クローゼット・フックは備え付けである。利用者の好みで縫いぐるみやテレビ・仏壇が置かれていた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が軽度で、分別のつく方には家族了承の基、建物内はある程度自由に行き来していただいています。すぐに分からなくなる方にも分かり易いように環境を整備している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター川崎御幸

作成日 H28年 12月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援。 現在、当拠点においてまだ看取りを行っていない。来たる日に備え、看取り時の対応を周知しておく必要がある。	終末期を迎える入居者様の看取り対応を、家族、医療機関等と連携し、行う事ができる。	家族や医師と連携し、終末期や重度化した際の対応指針を定める。現場職員に関しては、適宜研修を実施する。	1年以内
2	2	○事業所と地域との付き合い 27年度からの継続課題。28年度より町内との交流を開始したがボランティアの受け入れが出来ていない。	地域と連携し、ボランティアの受け入れをする。	区のボランティア情報や、地域のネットワークを生かして働きかけをしていく。	3ヶ月以内
3	4	○運営推進会議を活かした取組み。 1F小規模多機能、2F/3Fグループホーム合同で適宜開催しているが、開催内容が運営に活かされているか疑問があると指摘有り。	出席者が限定されているため、利用者・家族・地域包括支援センターの職員にも出席していただけるようにアプローチしていきま	運営推進会議のメンバーの見直しをおこなう。自治会、民生委員、行政職員等、地域の有権者と連携を強化していく。	3ヶ月以内
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。